

平成29年度 学校評価

自己評価部門

重点目標

年度報告

平成30年3月17日

鶴見大学附属中学校・高等学校

目次

目次	1
平成29年度 目標	2
(1) 長期目標	2
(2) 分野及び中期目標	2
(3) 平成29年度重点目標	3
(4) 評価の基準	3
(5) 結果	4
学年	4
1 s t ステージ	4
2 n d ステージ	4
3 r d ステージ	5
教科	6
国語科	6
社会科 (地理・歴史／公民)	6
数学科	7
理科	8
英語科	8
保健体育科	9
芸術科	10
家庭科	10
情報科	10
部署	11
生徒指導部	11
学習進路指導部	11
入試広報部	13
教務部	14
事務室	15
管理部門	16

平成29年度 目標

(1) 長期目標（大目標）

自立の精神と心豊かな知性を育み国際社会に貢献できる人間を育てる。

教育目標宣言：「学びの心で世界を変える。」

方針：生徒に自分の「好き」をみつけさせ、夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせる。

(2) 分野及び中期目標（中目標）

1. 中高校としての個性の発信

(1) 社会や保護者に向けての情報を提供する。

(2) 中学校・受験業界との関係を強化する。

(3) 同窓会との連携を強化する。

(4) 地域との連携を強化する。

(5) 高大連携を強化する。

(6) 自校史学習の拠点を整備する。

2. 保護者に信頼される教育の実践

(1) 学力の育成と向上：知的好奇心を伸ばし、自ら学ぶ力を身に付ける。

(2) 人間形成の実践：禅の精神に基づいて、豊かな心を育む。

(3) 国際教育の展開：国際舞台で活躍できるコミュニケーション能力を伸ばす。

(4) 生徒の就学支援を充実させる。

(5) 施設設備環境の整備をはかる。

3. 総持学園の一員としての生きがいの持てる職場環境

(1) 魅力ある職場づくりにつとめる。

(2) コミュニケーションがよい、職場づくりをする。

4. 安定した経営基盤を持つ法人

(1) 安定した経営基盤づくりを進める。

(2) 目標を掲げた計画的な学校経営をする。

(3) ガバナンスを強化する。

(3) 平成29年度重点目標

① ステージの重点目標

重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。
------	-------------------------

② 教科の重点目標

重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。
------	----------------------------

③ 各部署の重点目標

生徒指導部

重点目標	ルールやマナーを守らせ、よりよい学校生活を送れるよう指導・支援する。
------	------------------------------------

学習進路指導部

重点目標	教科エリア型校舎の特長を生かし、「学びから入る進路指導」を実践する。
------	------------------------------------

入試広報部

重点目標	中学入試・高校入試ともに募集定員を確保する。
------	------------------------

教務部

重点目標	教科エリア型校舎の新機能を最大限に活用し、教育の更なる充実をはかる。
------	------------------------------------

事務室

重点目標	少人数体制で学校運営の助成に徹底協力
------	--------------------

管理部門

重点目標	施策の体系を計画的に実施するために、関係部署と連携を図りながら確実に実行できるよう務める。
------	---

(4) 評価の基準

評価	評価の内容
5	十分な達成度である。
4	ある程度満足のいく達成度である。
3	概ねの達成度である。
2	不満の残る達成度である。
1	ほとんど達成されていない。

(5) 結果

① 各ステージの重点目標

1st ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	3. 5
評価項目①	Gyro 手帳を積極的に活用し、基本的生活・学習習慣を定着させる。	4
評価項目②	ステージ目標を大切にしながら、自主自立した行動ができるようにする。	3
評価項目③	相互理解と他者の価値観を共有し、充実したコミュニケーションをはかる。	3
評価項目④	課外活動や集団行動に積極的に取り組み、夢をもって前向きに取り組む。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	1 学年部は、小学校や地域性の違いによって価値観や生活習慣に差が生じやすかったが、学年の努力によって各クラスの個性が生かされるようになってきた。2 学年部はステージ行事や日々の学習を通じて各生徒にふさわしい助言ができた。
評価項目①	入学時より、Gyro 手帳の活用に関しては徹底して指導と確認をしてきているので、上手に活用して学校生活を過ごし、学習計画ができていると思われる。手帳の活用と、記入については二極化してきている傾向があり、課題である。
評価項目②	ステージ目標を生徒は素直に受け止め、機会があるたびに確認するようにしている。はつらつと楽しそうに過ごす一方で、「気配り」に関してはまだ課題が多い。自分で考えて行動することはそれぞれの学習活動や学年で体験することによって育まれると考える。
評価項目③	ちょっとした行き違いやコミュニケーションスキルの差によって常に小競り合いが多い日常がみられた。ただし、そうした関係の中で一つ一つの出来事を経験として、成長がうかがえる。学校生活をのびのび過ごし、楽しそうにしている生徒が多い。
評価項目④	部活加入率は高く、それぞれの放課後を充実して過ごしているが、勉強との両立は課題といえる。中学入試合格後の安心による反動が見られる傾向もあるので、キャリア教育もじっくりと実践していきたい。

2ndステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	4. 0
評価項目①	常に自己を見つめ、自分と向き合い自己理解を深める。	5
評価項目②	何事にも目標を掲げ、計画を立て、それを強い熱意で実行する自立心を持つ。	4
評価項目③	身の回りの整理整頓は頭の整理整頓、時間の余裕は心の余裕とし実践する。	3
評価項目④	常に素直な気持ちで、人の話をしっかり目で聴き、自己の成長に繋げる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	ステージ目標『自己理解と自立心』の実践のために、日々の黙念を大切にし、自己をしっかり見つめ、常に目標・計画・熱意をもって行動をさせてきた。自己のあるべき姿を知ることによって、他者への配慮・思いやりの心も持てるようになった。目標を意識することによって、計画や熱意について、ステージ担当者・ステージ生徒とのコミュニケーションも良好に行うことができた。
評価項目①	「自己理解」の基本的な姿勢は、常に自分と向き合い、本来の自分をしっかり見つめることである。そのための時間として、日々の黙念を大切にさせてきた。朝の黙念は今日一日の自分をイメージし一日の計画を立てさせ、帰りの黙念は一日を振り返り明日に繋げさせる黙念である。生徒は黙念の時間を大切に考えてくれていた。

評価項目②	ステージ全体で、それぞれの時期での自分の長期・中期・短期目標を考えさせた。 ①目標を掲げ、②計画を立て、③熱意をもって実行することの大切さを事あることに話してきた。そのことの重要性は理解しているようだが、③熱意をもって実行に移せていない生徒もまだまだいるようであった。
評価項目③	身の回りの整理整頓は頭の整理整頓、時間の余裕は心の余裕であると言い続けた。 全体的に実行しようとする意識は高いように思う。 しかし、一部の生徒ではあるが、HBの美化や時間厳守への意識が低い者がいた。
評価項目④	全体の前に伝達者が立ったら話を止めて一斉に注目をし、「人の話は目で聴く」ことに徹底させた。これは3学年部・オーストラリア語学研修旅行、4学年部・広島関西体験研修旅行に役立つこととして、常に話をしてきた。素直な気持ちで人の話を聴くことが、自分のプラスになること、自分の成長につながることを言い続けた。

3rd ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	4. 0
評価項目①	学習意欲の向上を図り、基礎学力を定着させるとともに探求する力を養い、個に応じた進路実現をサポートする。	4
評価項目②	学校行事、部活動等において上級生としてのリーダーシップを発揮させ、グローバル化していく未来を生きる力を育てる。	4
評価項目③	時間厳守、挨拶、HBの整理整頓等、基本的な生活習慣を確立させ、社会で自立して活動していくために必要な資質を身につけさせる。	4
評価項目④	集団生活の中で規律ある態度を養い、誠実で思いやりのある人間性を育てる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	大きく変化していくこれからの社会を主体的にたくましく生き抜くために、豊かな心で自ら学び、考え、判断し問題を解決していく力を身に付けられるよう様々なガイダンスを通して、学年スタッフが一丸となって指導してきた。
評価項目①	5学年部では将来の進路実現に向けて、日々の授業の大切さを再認識させ、授業に真剣に取り組む姿勢を身につけさせた。Gyro手帳を活用して家庭学習時間調査をし、安定した家庭学習時間を確保できるように指導した。2学期・3学期には、現役大学生による進路ガイダンスを実施し、現状と課題について1人1人が理解した。 6学年部では、AO、推薦入試の生徒については他学年の先生の協力も得て、ある程度の結果を出すことができた。一般受験では生徒一人一人の受験プランに対し、適切な情報の収集・分析に努め、また学年全員で共有した。
評価項目②	学校行事・部活動を通して、チームワークの大切さ・共通の目的に向かうことの大切さ・学年に応じて求められる役割を果たす対応力などが身についた。
評価項目③	学年部スタッフの工夫と積極的な関わりで、時間厳守、挨拶、HBの整理整頓等、当たり前のことを当たり前のように行う基本的な生活習慣が身についた。
評価項目④	特活・HR等において、ルールを守り、互いに認め合い、人の嫌がることをしない、相手の立場になって物事を考える「思いやりの心」を育てることができた。

② 各教科の重点目標

国語科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 0
評価項目①	適切な課題と適時な小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目②	教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業を確立させる。	4
評価項目③	ICT教育の共有を推進し、授業展開の効率化をはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学・高校ともに、週末ごとに課題を課し、自学自習の習慣の確立、自律の精神の涵養を図った。また、生徒の学力に相応したテキストを課した。メディアセンターに各教員ごとの課題提出ボックスを設置し、やり取りが円滑になるよう図った。
評価項目①	中学、高校それぞれに本校の生徒の進捗を考慮したオリジナル教材の「のぞみ」（中学全員）、「パワーアップテキスト」（高校1・2年生）を配布し、それを定期的にチェックすることで家庭学習を定着させる一助とした。また、中学では漢字、高校では、漢字、単語、文法の小テストを適宜実施し、基礎力の定着を図った。
評価項目②	メディアセンターには各種辞書に加え、国語便覧を多数用意し、授業中や自学自習に利用できるようにした。また、プロジェクターを積極的に利用したり、アクティブラーニングを取り入れた授業が徐々に増加してきている。
評価項目③	授業におけるプリント教材やプロジェクター教材を共有することで、授業はもちろん、教科業務においても効率化を図ることができた。

社会科（地理・歴史／公民）

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	地理・歴史・公民の学習を通じて、基礎的な知識や技術の定着をはかるとともに社会的事象への関心を喚起する。	5
評価項目②	アクティブラーニングを通じ、自ら考え、課題を発見する能力を獲得する。	4
評価項目③	ICT教育の推進を引き続きはかると共に、教科研究の充実と情報の共有化、積極的な情報発信をはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	昨年度より、生徒用タブレットを導入し、多くの生徒が活用できるようになり、生徒の学習活動の幅が広がっている。 また、教科エリア型校舎の特長を生かし、社会科メディアでは、生徒の課題レポートを掲示したり、各教室では、生徒の興味を喚起する資料を準備するなど、多方面から生徒の学力向上に向けた取り組みができた。
評価項目①	各先生が各種研修会に出向き、研鑽をつむなど、授業力の向上に努めている。また、社会科では、全教員がプロジェクターの活用を通じて、生徒へ学習内容の事物・人物・できごとなどを視覚的に印象付け、授業への強い関心を引き出すことができた。
評価項目②	各科目や単元に応じて、グループで課題に取り組ませたり、協同的な学習を行ったりすることができた。ロイロノート等を活用することで、グループ発表も速やかに行うなど生徒の自発的な学習態度を養うことができた。また、「論文に親しむ」の科目においても、アクティブラーニング型授業を展開することができた。一方、2単位科目など授業進度との関係で、アクティブラーニング型授業を行う時数の確保に苦慮することもあった。

評価項目③	社会科では本年度、新卒の2名の教員を採用したが、新任の先生が積極的に教材研究に励まれていること、また、各科目ごとに授業をリードする教員を定め、授業で用いるパワーポイント教材を共有したり、共通の小テストを行うなど、各クラスで教材等の共有をすることができたため、質の高い授業を展開できた。 次年度には、教科メディアを使つての「企画展」なども実施していきたい。
-------	--

数学科

1) 結果

重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	評価
評価項目①	スパイラル学習により、知識を定着させ、表現力をつける。	3
評価項目②	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目③	クラスやコースの違いを踏まえた授業を展開する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学においては、週末ごとに宿題を実施して自学自習の習慣を身につけ、自由課題用の問題集を与えて、自主的に学習することにより自立の精神を養った。 高校においては、教科書準拠の問題集以外に、課題プリントを与えたり、参考書を紹介して、自主自立の精神を養った。
評価項目①	中学では、業者テストの事前準備として課題冊子を与え、同じ単元の問題を繰り返して解けるようにした。また、自分自身で答え合わせをして正誤を付けさせ、間違えた問題は反復してやり直すように指導した。 高校では、教科書準拠の問題集を利用し、反復学習を心がけた。
評価項目②	中学では、毎週末や長期休暇前に課題を与え、計算力や数学的基礎知識を身につけさせた。課題の未提出者が多く、それらの生徒に対しては、居残り指導を実施し、平常点に反映させたが、顕著な成果は見られなかった。 高校では、課題を与えたり、小テストを実施して、基礎力定着を図った。
評価項目③	中学では学年ごとに生徒のクラス移動があるため、進学クラスと難関進学クラスの授業進度は同じにしたが、扱う問題に難易度の差をつけて指導した。特にアドバンスクラスでは、プリント学習を増やし、応用力を養った。 高校では、演習問題の量や質でコースにあった指導を行った。

理科

1) 結果

重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	評価
評価項目①	教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業の確立をはかる。	3
評価項目②	教材・器具・理科消耗品の充実をはかり、観察・実験が滞りなく実施できるようはたらきかける。	3
評価項目③	公的機関や大学・研究所・企業との連携をはかり、出張授業等の特別授業を実施する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	例年通り、メディアセンターに教員作成の各大学の入試問題の解答・解説集を準備し、生徒が自由に閲覧・利用できるようにした。昼休み・放課後には、多くの生徒が集い、授業の質問や教員とのコミュニケーションを通して、興味・関心と自発的学習を促す一助となった。
評価項目①	各教員が工夫して専門性の高い授業を実践している他、教員間の連携を図り、教科としての取り組みができた。実験室を授業教室として使用しているため、稼働率が高く、実験前の時間の実験準備や後片づけに支障をきたしていることもある。

評価項目②	今年度は大型装置や高額備品の購入はなかった。実験に必要な消耗品は逐次購入した。しかし購入にあたっては、少額消耗品であっても、業者との連絡・見積書の作成依頼・校内での書類の通過・納入までの一連の過程に時間がかかることが課題である。2代前の教科主任から主張していた通り、少額消耗品は教科の裁量で即購入できることが望ましい。
評価項目③	今年度は、神奈川県サイエンスプログラムへの動員と東京電機大学出張授業を初めて実施した。参加生徒からの評判は非常に良く、知的好奇心が刺激され、平素の授業のやる気の向上につながっている。次年度も継続していきたい。

英語科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 0
評価項目①	英語コミュニケーション能力・姿勢を習得させるため、4技能を意識した授業の確立をはかる。	4
評価項目②	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目③	ICT教育を充実させるため、教材、資料、情報の共有化をはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	授業内ではほとんどの教員がタブレットを使用している。今後はアクティブラーニングを意識しながら、生徒たちが関心を持ち、実践できる授業になるように、教科として取り組んでいく。
評価項目①	受験を意識しながら、ICT教育と4技能（読む、書く、話す、聞く）を取り入れる工夫をした。生徒たちには英語に慣れさせ、実践的な英語力を身につけることができるように指導した。徐々にではあるが成果が出てきている。
評価項目②	中学では各教員が日頃より、授業内においてかなりの頻度で小テストを取り入れている。また、火曜日のHR単語テストも定着してきた。今後、より活性化するように教科全体で取り組んでいく。
評価項目③	教員同士のフォルダを互いに有効に活用するようになってきた。資料や情報の共有は昨年よりもかなり向上している。しかし、教科内でより利用しやすい環境を整えることが必要であり、今後も周知徹底を図っていく。

保健体育科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識・技能の定着をはかる。	4
評価項目②	健康や安全を考え、正しい判断の下、行動の選択ができるようにする。	4
評価項目③	集団的活動や身体表現を通して、コミュニケーション能力を育成する。	5

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	集団的活動を通し、協調性・積極性を養い、自己の目標を持ち熱心に取り組む姿勢がどの学年でも見られた。体育委員やグループライダーが、クラスや仲間を率先して活動させ、授業の活性化に繋がっている。体育のダンスの授業でタブレットを使用し、インターネットからの動画の視聴や、ビデオカメラで撮影し、動きを確認するなどをして授業を進めたが、今後他の種目でも活用していきたい。
評価項目①	体育では、反復練習の中でチーム同士教え合うなどのグループ学習を通して、また、保健では、プリント課題や小テストの実施、定期テストの振り返り授業などで知識や技能の定着をはかった。

評価項目②	保健の授業において、身体づくりや健康問題・応急処置などを学んでいる。けがや事故が起こらないような行動をとることはもちろんのこと、緊急の場合の対応ができるようにすることも心がけた。
評価項目③	体育実技の練習やゲームの進行、ダンスの作品作りなど、グループ学習によって意欲が高まり、自主性や積極性が増されている。体育祭では、その成果が出ていたように思える。

芸術科

1) 結果

重点目標	教科エリア型校舎の特長を發展させ、自律の精神を養う。	評価
評価項目①	ICT教育の充実をはかりながら教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業を確立させる。	4
評価項目②	芸術文化についての理解を深め、表現力と技術力の向上をはかると共に豊かな情操を養う。	4
評価項目③	音楽、美術、書道、3教科の連携を深め、教科の枠組みを越えた広い視野での教育をめざし、芸術文化に対する感性を育てる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	芸術メディアには常に生徒の制作した作品を展示し、生徒の芸術教科への意欲を高めることができた。 3教科とも、生徒が能動的に学習することが多くなり、目標はおおむね達成できたと感じる。
評価項目①	音楽の鑑賞教材ではプロジェクターやタブレットを使い、聴覚だけでなく視覚からも作品を味わい、より具体的に作品の魅力に迫ることができた。 美術・書道では、書画カメラやDVDを使用し、作品の制作過程をより詳しく指導することができた。 芸術メディアでは、常に生徒の制作した作品を展示し、教科エリアを充実させた。
評価項目②	美術では、長期休みを利用して美術館に足を運ぶ生徒が増え、生徒が自発的に学ぶ姿勢がみられた。 音楽では、学期に一度は実技試験を行い、自分を表現することや、表現するための演奏技術にはどのようなものがあるか、生徒自身が目標を立て練習し、助言しながら達成させることができた。
評価項目③	美術と書道では、美術で色づけ（マーブリング）した用紙に書道で文字を書き、光華祭で展示発表することができた。 高校の選択音楽では、グループごとのアンサンブル発表会を行い、美術選択・書道選択の生徒に聴いてもらい、3教科で芸術に親しむことができた。

家庭科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を發展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目②	メディアセンターや展示コーナー及び教科教室の充実をはかる。	5
評価項目③	実習を通して、達成感を味わえる指導をし、創意工夫能力や生活力をつける。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	意欲的に楽しく授業に臨んでいる姿勢を感じられたことは、自律の精神が育つ上において役立っていると思われる。調理実習などは男女混合班のためお互いが教えあいながら仲良く協力して作業を進め、作業の遅い生徒への気遣いが生徒間で上手にできるようになった。
評価項目①	課題については、高校生はほぼ100%の提出。中学生は登校していない生徒が若干名いるため100%とはいかなかった。繰り返し教えることに力を入れ、小テストをすることで疑問や結果を理解、把握することができた。
評価項目②	中学生・高校生両方の授業での製作した作品を展示した。また、特活自由研究での1stステージ・2ndステージの生徒の優秀作品を展示するなど、充実させることができた。余り布によるクリスマスツリーなど年2回の大幅入れ替えも行った。
評価項目③	高校生は実習で学んだことを基に、家庭で創意工夫して実践する生徒が多くなった。中学生は創意工夫まで到達しなくとも、自分の歴史を振り返り、家族が深い愛情で支えてくれていることが理解でき、手伝いや親子のコミュニケーションが増えてきた。

情報科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を發展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目②	情報モラル・セキュリティなどの重要性を理解させ、ICT教育の充実をはかる。	5
評価項目③	資格取得やスキルアップをはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	もともと情報はCAI室でのコンピュータを使用した実習授業が主であるため、特に教科エリア型校舎だから充実したということはない。簡単なプログラミングや、インターネット使用上の情報モラルやセキュリティ・サイバー犯罪の怖さの理解その意識の向上・定着に努めることができた。
評価項目①	毎時間始めに約10分間のtyping練習などを行った後、課題（Microsoft Office や HTML・Java Script など使用）を提出し、PC操作を踏まえた調べ学習によるレポート・Webページの作成などの成果物が得られるようになった。
評価項目②	各自のIDとパスワードの自己管理、セキュリティの重要性を理解させることができた。アプリケーションソフトやアナログな手法も使い、情報の収集・判断・取捨選択・発信による問題解決、プレゼンテーションを行い、伝えることの難しさや的確な相互評価ができるようになった。
評価項目③	受講生が約30名ずつだったため、個人指導にかける時間がかかったが、情報処理技能検定は約60%が2級を合格し、ほぼ全員が3級以上の資格を取得することができた。また、P検も準2級取得生徒が数名、ほぼ全員が3級以上を習得することができた。

③ 各部署の重点目標

生徒指導部

1) 結果

重点目標	ルールやマナーを守らせ、よりよい学校生活を送れるよう指導・支援する。	評価
評価項目①	「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめ防止教育を強力に展開する。	4
評価項目②	校内外においてきちんとした制服の着こなしをさせる。	4
評価項目③	携帯電話の校内外でのルールを守らせる。	4
評価項目④	インターネットにおいて適切かつ安全な利用ができるように指導・支援する。	4
評価項目⑤	生徒会や委員会の自発的・自主的活動を支援する。	5
評価項目⑥	校内の清掃や整美を徹底させる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	ルールを守ることの大切さを、普段から道徳やHRなどを通じて話しているが、生徒たちは校則などよく守ってくれている。携帯電話の使用や登下校時の歩き方のマナーなど近隣から注意を受けることもあり、今後、より一層のマナー教育を充実させたい。
評価項目①	定期的に「いじめ防止対策会議」を開き、学校全体の“いじめ防止”に努めてきた。“いじめ”と認識される事案は数件発生したが、初期の段階で縦・横の連絡を密にして対応したため、重大事項に発展することには至らなかった。
評価項目②	道徳等で“校内外でのきちんとした身だしなみ”について生徒たちに理解を求めた。定期的に風紀指導も実施したが、大部分の生徒たちはよく守っていた。最近、女子がハイソックスを下げて履くのが流行で、キップ指導を受けた生徒が目立った。
評価項目③	歩きスマホによる事故も多発しているため、生徒たちにその危険性について話をすると共に、今年度よりキップ指導の対象とした。携帯電話の校内の使用については、大部分の生徒はよくルールを守っているが、懲戒指導を受けた生徒もいた。
評価項目④	L I N E等で友人の悪口を書き込み、生徒指導を受けた生徒もいたが、下級生ほどその危険性など理解できず、軽率に使用してしまうようであった。1st・2ndステージには専門業者を呼び、正しい利用の仕方を講演していただいた。
評価項目⑤	学校行事では生徒たちが中心となって活動する場面が増えた。体育祭では、準備や放送など生徒が中心となって働いた。また、光華祭では入場門の製作や後夜祭に至るまで生徒会の生徒たちが精力的に活動してくれた。
評価項目⑥	生徒たちは毎日の清掃をしっかりと行っている。学期末や学校説明会前の定期的な大掃除でも、生徒たちは一生懸命、掃除をしてくれた。

学習進路指導部

1) 結果

重点目標	教科エリア型校舎の特長を生かし、「学びから入る進路指導」を実践する。	評価
評価項目①	学習指導要領や中教審答申等の主旨を踏まえ、21世紀型教育推進委員会とも連携して、思考力・判断力・表現力を育てる施策を計画立案、実施する。特に、アクティブラーニングについては、21世紀型教育推進委員会をはじめ、特活LHR科（特活自由研究）やその他の各教科、教務部と連携して、体系的な整備を推進する。	4
評価項目②	生徒の進路意識を調査、把握して、生徒一人ひとりが進路意識を高めるよう、教育相談や三者面談の機能のいっそうの充実をはかる。補習・補講体制の充実、向上を目指して、学習支援室・教育相談支援室を有効に活用して、きめ細やかな学習指導・進路指導を行う。	5

評価項目③	各学年（ステージ）の段階に応じた学習進路指導計画を立案し、進路の意識啓発を目指す行事・諸活動を通じて、生徒一人ひとりが自己を高める進路目標をもち、積極的な行動をするよう働きかける。 特に、Gyro ファイル・手帳の活用について、学年・学級経営と連携して生徒の自学自習の学習習慣の定着をはかるほか、各教科、各ステージ・各学年部、関係各部署と連携し、その教育活動を支援する。	4
評価項目④	大学受験を視野に入れた学習態度、生活態度を涵養する働きかけを行うとともに、キャリア教育や難関大を目指す生徒を支援するプログラムのいっそうの充実をはかる。特に、高校の特別講座については、前年度以上に活性化をはかり、難関大合格を目指す生徒を支援していく。	5
評価項目⑤	大学進学以外の進路希望分野（看護・医療技術系学校進学希望者、その他の分野の専門学校進学希望者、及び就職希望者）について、適切な情報を提供する機会を設ける。また、海外大学への進学指導について、21世紀型教育推進委員会と連携しながら調査研究及び情報提供を行う。	5
評価項目⑥	生徒一人ひとりの学習目標・進路目標を達成するために、教科指導力・進路指導力の向上をはかる施策をよりいっそう充実させる。校内では、模試分析会その他の研修機会も生かし、各教科・各ステージ・各学年部、校内各部署との連携をはかる。また、鶴見大学やその他の大学等と連携し、出張講義などの学びの機会拡充をはかる。	4
評価項目⑦	保護者に近年の入試動向を理解していただく機会を設けるとともに、協働して生徒を支援する体制を構築する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	一年間の取り組みを通じて、「学びから入る進路指導」を実践することができた。特に、将来計画委員会と連携して、新学習指導要領や教育政策の動向を踏まえて、向こう8カ年の中期事業計画工程表を取りまとめることができたこともあり、教員研修委員会を始めとした校内各部署との連携、内外の研修会を通じて、教育政策の新動向を踏まえつつ、進路指導力・学習指導力の向上をはかることができた。
評価項目①	施策の体系「工程表」・教育改革対応「工程表」が整備されたことにより、中・長期的な展望をもって、各教科の授業実践を支援することができた。 21世紀型教育推進委員会などの関係各部署との連携により、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を育てる施策やアクティブ・ラーニングについて、教職員の理解と実践が大きく前進した。
評価項目②	教育相談支援員・学習支援員に加えてICT支援員も配置され、これらの職種との連携も順調であり、「チーム鶴見大学附属」として教科指導力、進路指導力のいっそうの向上をはかることができた。タブレットPCの活用により、引き続き6学年部（高3）の受験指導を始めとして、ICT活用によるきめ細やかな進路相談ができた。
評価項目③	引き続き、各教科・各学年部との協働を深めることにより、校内模試を滞りなく進行するとともに、年間指導計画に基づいた見通し・振り返りの学習活動や発展的な学習指導の拡充をはかることができた。また、Gyro 手帳（能率手帳スコラ・スコラライト）による学習習慣定着への働きかけを強化することができた。
評価項目④	引き続き、大学受験を視野に入れたガイダンス、予備校・塾との連携など、これまでのさまざまな実践が、難関大合格実績等の進路結果や模試・進路意識調査等の結果に表れてきている。特別講座は、募集講座数・参加者数ともに前年度を上回った。引き続き、魅力ある講座をいかに増やしていくか、教科との連携を深めていきたい。
評価項目⑤	幼稚園・保育園体験学習、看護体験学習等を通じて、専門職従事者に求められる資質や素養を育む働きかけを行うことができた。また、関係各部署や外部の企業・団体と連携して、「グローバル教育セミナー」を開催するなど、海外大学への進学指導を含むグローバル教育を進展させることができた。

評価項目⑥	前年度に引き続き、1st・2nd ステージでは、Gyro ファイルなどによる学習習慣の定着に向けた活動、指名制補習、3rd ステージでは難関大受験指導、教養講座等の取り組みで、成果を上げることができた。学期末補講・特別補講・指名制補習などの制度構築が進展したが、なお、日々の補習・補講に取り組みやすい環境作りに向けて課題を残している。高大連携では理科・社会での取り組みを側面から支援できたが、行事の調整が難しいなどの制約もあり、機会拡充が難しい状況が続いている。
評価項目⑦	生徒・保護者対象または保護者対象の進路ガイダンスを実施、Gyro(進路通信)の発行や情報誌の提供などを通じて、保護者との情報共有をはかることができた。

入試広報部

1) 結果

重点目標	中学入試・高校入試ともに募集定員を確保する。	評価
評価項目①	将来の6カ年一貫化を見すえ、中学募集の強化をはかる。	4
評価項目②	ホームページの充実。	4
評価項目③	募集特に学習塾訪問活動の充実、強化をはかる。	4
評価項目④	校内外で開催される諸入試イベントの充実、強化をはかる。	4
評価項目⑤	情報の有効な発信をはかる。	4
評価項目⑥	他の関係部署との十分な連携をはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学・高校入試ともに募集定員を確保することができた。昨年度より応募者、実受験者ともに増加した。背景として模試会場の本校校舎貸し出し、ミニ説明会の新設等により、受験生、保護者の来校機会が増えたこと、昨年度より実施した適性検査入試、英語入試受験者数の認知度が上がったこと等が指摘できる。高校入試では、評定基準を上げたにも関わらず一定の受験生を確保することができた。
評価項目①	大学入試改革などへの対応、21世紀型教育への取り組み等を礎に基づく教育と教科エリア型との連携のもとで発信、一定の評価を受けることができた。
評価項目②	ホームページは業者との綿密な打ち合わせのもとでリニューアルし、最新情報更新がより可能となった。
評価項目③	校長及び塾担当メンバーにより、塾との関係は今まで以上にすすんだと思われるが、他校務との兼ね合いで塾訪問に時間を割くことが困難な状況も多々あった。また、中学入試の模試会場としての貸し出しと説明会等の機会が増加した。
評価項目④	配役人数等、可能な範囲の中ではあるが、特に体験学習やブース対応、説明会におけるテーマ設定、画像資料の作成等を中心に、諸イベントの充実と強化をはかり、一定の評価と成果をおさめることができた。
評価項目⑤	中学校回り、入試相談を合わせて計3回実施、ポスター、学校案内等の基本資料以外にも、各中学校卒業生で本校に在籍している生徒の近況を報告、各中学校との情報交換は質、量ともに向上させた。
評価項目⑥	校内外の諸イベントの開催、募集活動、入試業務全般において、教務・事務をはじめとする関連部署とはほぼ円滑な連携をはかることができた。

教務部

1) 結果

重点目標	教科エリア型校舎の新機能を最大限に活用し、教育の更なる充実をはかる。	評価
評価項目①	(統括)関係各部署と連携しながら、常に全体を意識して業務を行う。	4
評価項目②	(運営)年間計画および各行事等を、各部署との調整を図りながら円滑に運営する。	4
評価項目③	(文書)定期テスト・各種模試を円滑に実施する。鉄道の遅延などの非常時に適切に対応できるよう各部署と連携をはかる。	4
評価項目④	(統計)学校内の情報を丁寧に処理し、その把握に努め、各部署との連携をはかる。	4
評価項目⑤	(情報管理)昨年度から環境などが変更した内容などがあるので、ミスの無いように全体で協力しながら取り組む。また、高校3年生の調査書をはじめ、一般の教員への連絡もれが無いようにする。	4
評価項目⑥	(体験研修交流事業)3学年部オーストラリア語学研修旅行の再検討。海外学生との交流機会の拡大。ターム留学来年度実施に向けての諸準備。	4
評価項目⑦	(修徳)建学の精神をふまえ、日々の黙念を大切にし、しっかり常に自己を見つめ、他者への感謝と思いやりを忘れず、何事にも目標・計画・熱意をもって、一生懸命に取り組む。	4
評価項目⑧	(文化事業)AL実施時の基礎資料としての蔵書活用、また展開場所としての利用を拡大していく。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	各部署ごとに連絡を密に取り、概ね支障なく円滑に教務関係の業務を遂行できたと思われるが、改善が必要と思われる箇所も見受けられた。次年度は更に一層の工夫と業務の見直しを行い、教科エリア型校舎の特徴を全面に生かした教育の充実を図っていく。
評価項目①	概ね支障なく円滑に運営できたと思われるが、部署内での連携体制を再度見直す必要があるようにも思われる。次年度には年度当初、各部署毎に業務の確認と連絡体制の再度徹底をしていく必要が認められる。
評価項目②	各行事を滞りなく実施することができた。より円滑に運営できるよう、改善点を検討していきたいと思っている。また、各行事において、生徒が主体的に各任務をスムーズに遂行できるようになってきているため、さらにその幅を広げていきたい。
評価項目③	今年度は欠勤、退職、休職の先生や年度途中から赴任された先生があったので、特にテスト監督配置の作成に苦慮した。今後も、臨機応変にかつ柔軟に対応する姿勢が求められる。
評価項目④	各種学校調査も滞りなくできた。入試作業では細かいミスもあったが、中学入試では合格発表時間20分前にデータが作成でき、遅れることなくサーバーに送ることができた。部員の練度も上がり、各種のデータ処理もスムーズにできた。
評価項目⑤	部員全体で各種処理作業に当たることができた。今年度も新規部員が増えたが、去年度の資料等が役に立ち、大きな問題もなく作業を進めることができた。来年度は各種データのチェックなどを今年以上に行っていきたい。
評価項目⑥	遠足、2学年部English Campの反省を集約した。3学年部オーストラリア語学研修旅行者の見直しを実施した。インドネシアの学校との交流会を光華祭時に実施した。海外研修旅行の緊急対応マニュアル作成のための資料を収集中。
評価項目⑦	黙念で始まり黙念で終わる本校の学校生活において、日常生活ではなかなか設けることの出来ない厳粛・静寂な朝礼の時間を、自己理解の時間として大切に過ごしていた。黙念で心を落ち着け、読経・聖歌では集中力を高め、前向きな姿勢で授業に向かうことが出来ていた。
評価項目⑧	講堂ホール、視聴覚室共に設備の老朽化で安定した照明・放送業務が困難になっている。その中でも工夫と協力で乗り切っている。機関誌は、載せてほしくない生徒への対応に苦慮する中、丁寧な対応を心がけて発行を続けている。

事務室

1) 結果

		評価
重点目標	少人数体制で学校運営の助成に徹底協力	3.7
評価項目①	教務（特に統計）との連絡連携を密にとり円滑に校務を進める。	4
評価項目②	全事務職員が学校有益の為に積極的に新たな仕事に取り組む。	3
評価項目③	勤務時間を有効に使い、時間超過の削減に努める。	4
評価項目④	学校施設の全てにおいて、常に現状把握と管理に努める。	4
評価項目⑤	大学との連携等、一層の業務効率化をはかる。	4
評価項目⑥	飽和状態になっている閲覧室書棚の更新に努める。書庫の整理に努める。	3
評価項目⑦	施策の体系工程表に基き、自校史資料の保存に努める。卒業アルバムのデジタル化を行う。恒久的な鶴の林の保存方法を研究する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	少ない事務職員ゆえに先生方の協力を得て、経理・図書職員も部署を超えた事務業務のフォローに努めることができた。ただ、まだ事務職員のオーバーワークを改善するまでには至っていない。
評価項目①	入試時においては、受験生の名簿作りから始まり、試験後の成績・合格発表掲示用データの受け渡しにおいて、統計からのデータで一部不具合があったが直ぐに対処でき、スムーズに遂行できた。
評価項目②	光熱水費など経費削減に係わる仕様を、学園内または他校の情報収集にあたり検討している。施設や用具においても、常に学校運営の効率化を考え導入することができた。
評価項目③	土曜日午後の願書受付任務を事務室職員のみとし、翌週現金を経理に入金することにより、事務職員の勤務軽減に努めることができた。
評価項目④	大学管財課と常に連携をとり、不具合箇所の確認修繕を速やかに対応できた。特に大きなところでは学校周りの危険視されている崖法面の補修、グラウンドに影響を及ぼす排水設備の改修、記念講堂屋上の防水・外壁大改修工事の実施。
評価項目⑤	大学経理課との勉強会を通じて、現状の業務効率化と大学経理課への業務移行などについて打ち合わせを行った。来年度以降、具体的に実行していく予定。特に総務課・管財課・経理課・人事課・地域連携推進課・キャリア支援課との連絡を密にとり、情報交換ができています。
評価項目⑥	現在、作業を継続中である。
評価項目⑦	卒業アルバム2冊DVD化。さらに作業継続中。古い鶴の林については、作業を具体化するに至らなかった。

管理部門

1) 結果

		評価
重点目標	施策の体系を計画的に実施するために、関係部署と連携を図りながら確実に実行できるよう務める。	3. 7
評価項目①	双輪会・同窓会・鶴見大学・本山との連携を強化する。	4
評価項目②	探究型教育・グローバル教育・ICT教育の実践推進のため、21世紀型教育推進委員会の活動を支援する。 また、教員用・生徒用タブレット端末の活用推進を支援する。	4
評価項目③	重点教科である理科教育の充実のため、学習進路指導部や教員研修委員会と協力しながら支援する。	3
評価項目④	健全な部活動の基盤整備を進める。	5
評価項目⑤	英語科や国際交流係と連携しながら、国際教育充実をはかる。また、短期留学の実施に向けて、国際交流係を支援する。	4
評価項目⑥	昨年度着手した就業規則・給与体系の見直しを進める。また、研修制度の充実や「チーム学校」の体制を整え、教員ができるだけ教育指導に専念できるような学校組織づくりに向けて努力する。さらに、適切な教員採用ができるよう研究をすすめる。	3
評価項目⑦	教務部と事務部が連携し、相互の業務の再編をはかる。	3

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	施策の体系を工程表に基づきながら、概ね予定通りに実施することができたが、項目によってはやや遅れているものもあるので、今後重点的に取り組んでいきたい。
評価項目①	<p>双輪会とは、体育祭での受付業務、文化祭での双輪会ブースの担当など、年間を通じて委員や役員の方々に協力していただく体制を整えることができた。また、委員の方々の意見を聞きながら文化教養講座（保護者対象講演会）を実施した。</p> <p>同窓会には、生徒の部活動のために、予算に「生徒部活動助成金」を計上していただいている。今年度は、地域ボランティア活動の一環として、病院や保育園などで訪問演奏を熱心に行っているJRCボランティア部に対して、ハンドベル購入の助成をいただいた。</p> <p>大学との連携は、従来の施設見学会・施設の相互利用・中学受験生対象の歯学部体験イベントや講師の派遣・文化財学科の体験学習などに加えて、新たに中高の文化祭で歯学部のブースを設け、多数の来校者に体験コーナーなどに参加していただいた。</p> <p>本山とは、引き続き「つるみ夢ひろば in 總持寺」に吹奏楽部が参加したほか、生徒のボランティア活動の一環として、2学年（中2）・4学年（高1）が本山の清掃活動を行うなど、積極的に連携をはかることができた。</p>
評価項目②	<p>21世紀型教育推進委員会の探究型教育・グローバル教育・ICT教育の各グループで、定期的に委員会を開催して諸課題を検討した。特にICT教育研究グループでは、グループが提供しているクラウドサービスの一つである「Google・スイート」の学校導入に向けて、試行をはじめた。また、昨年度導入した生徒用タブレット「Activa」の積極的利用を促し、取扱い業者が出展した「教育ITソリューションEXPOセミナー」では、実践先進校例として紹介され、プレゼンを行うなど、対外発信も行うことができた。</p> <p>更に、21世紀型教育推進委員会のメンバーらが率先して、本格的活用を促したい。</p>
評価項目③	<p>前年度に引き続いて、重点教科として理科を指定し、教員の授業指導力向上をはかるため、公的機関や民間企業による教員対象研修会への参加について、教員研修委員会と連携して支援した。また、理科より提案のあった企画（神奈川県立青少年センター主催「中高生サイエンスキャリアプログラム」、東京電機大学理工学部准教授（応用物理学）による出張講義「テーマ：流体～アルソミトラ飛行体」）を、それぞれ学習進路指導部・教務部と連携して実行に向けて支援した。引き続き、理科教育の充実、理科科目の受験指導力向上をはかるため支援していきたい。</p>

評価項目④	生徒や顧問の達成感のある活動とともに、大きな負担とならないような健全な部活動のあり方について検討し、文科省の通知に基づき、部活動の休養日や活動時間の規程を整備した。3月発信予定の、新たな文科省やスポーツ庁のガイドラインを見ながら、更に整備をすすめたい。
評価項目⑤	21世紀型教育推進委員会のグローバル教育研究グループや英語科と協力しながら、鶴見にある「横浜市国際学生会館」との連携事業として留学生に協力をいただいている週1回の「イングリッシュラウンジ」は、概ねスムーズに運用できている。 また、国際交流では今年度は文化祭の日に、インドネシアの学校と交流会を実施することができた。来年度はカリフォルニアのハイスクールの生徒のホームステイ受け入れが予定されており、国際交流係を中心に準備を進めている。 さらに、希望者対象のターム留学の研究・準備をすすめ、来年度より実施の計画を立てることができた。
評価項目⑥	「チーム学校」の考え方のもと、学習支援員（チューター）・教育相談支援員・部活動支援員（コーチ）の増員をはかり、更にICT支援員を新たに置くなど、教職員の負担を軽減しつつ、本務である教育力の向上をはかるよう努めた。 また、法人契約の社労士とも相談しながら、諸体系の見直しに関する具体的な取り組みを行った。今後もスピード感をもって更に進めたい。
評価項目⑦	段階的再編の実施を年度当初目標とし、昨年度に引き続き、今年度も論点整理に当たった。事務部担当部署と教務部担当部署による事務系業務と教育系業務の実態把握および連携可能な範囲についての話し合いにとどまった。